

箱根山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

< 噴火警戒レベルを 1（平常）から 2（火口周辺規制）に引き上げ >

箱根山では、火山活動が活発化しています。

4 月 26 日以降火山性地震の多い状態が継続しており、昨日（5 日）には箱根町湯本で震度 1 を観測する地震が 3 回発生しました。

これらのことから、箱根山では火山活動が更に高まっていると考えられ、今後、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があります。

大涌谷周辺では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

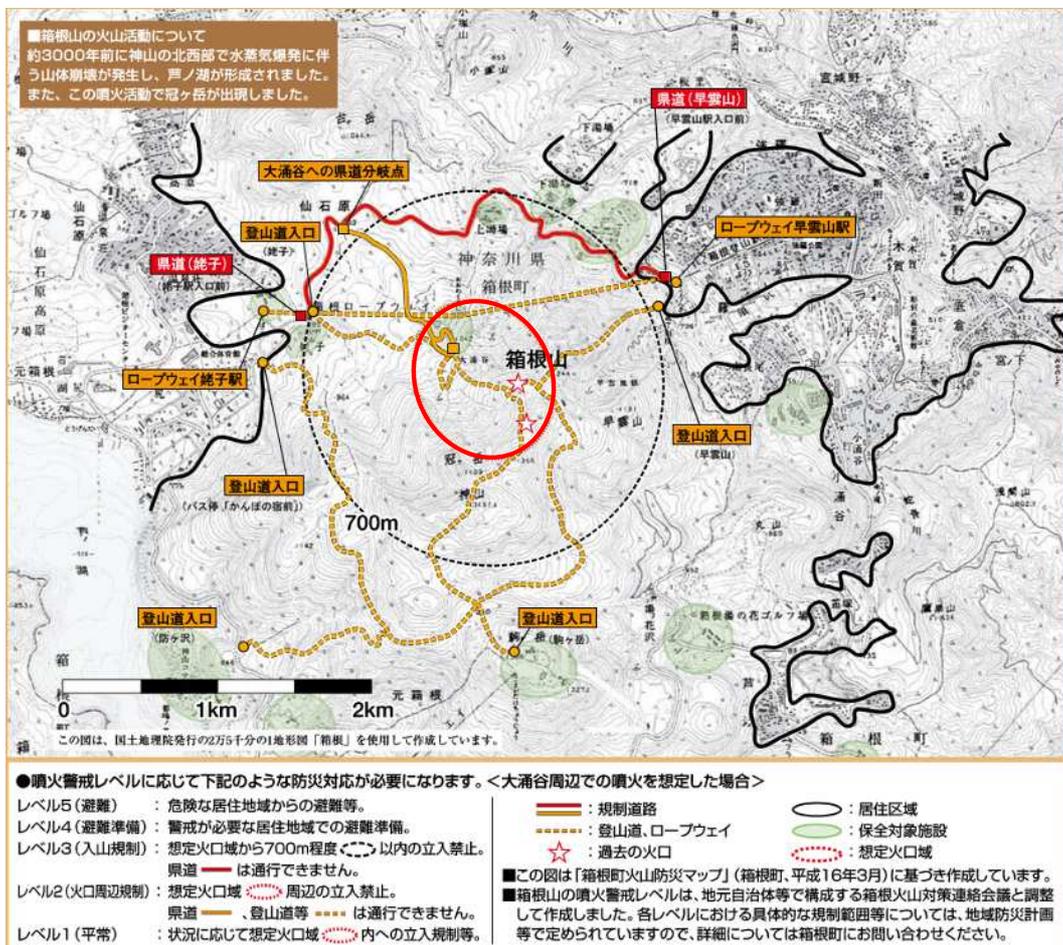


図 1 警戒が必要な範囲：大涌谷周辺の想定火口域（図の赤円内）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地学研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

活動概況

・地震や微動の発生状況（図 2 - 、図 3）

4 月 26 日 14 時頃から大涌谷付近から神山付近の浅い所を震源とする火山性地震が増加しています。昨日（5 日）には箱根町湯本で震度 1 を観測する地震が 3 回発生しました。

低周波地震及び火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図 2 - ~ 、図 4）

気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜計（図は気象庁）に、この地震活動に関連するとみられるわずかな変動が引き続き観測されています。

・噴気などの表面現象の状況

昨日（5 日）までの現地調査の結果、大涌谷温泉施設で 3 日確認された蒸気が引き続き勢いよく噴出しているのを確認しています。

宮城野遠望カメラ（大涌谷の東北東約 3 km）による観測では、早雲地獄の噴気は少ない状態が続いており、噴気の高さは 4 月 26 日以降概ね 100m で経過しています。

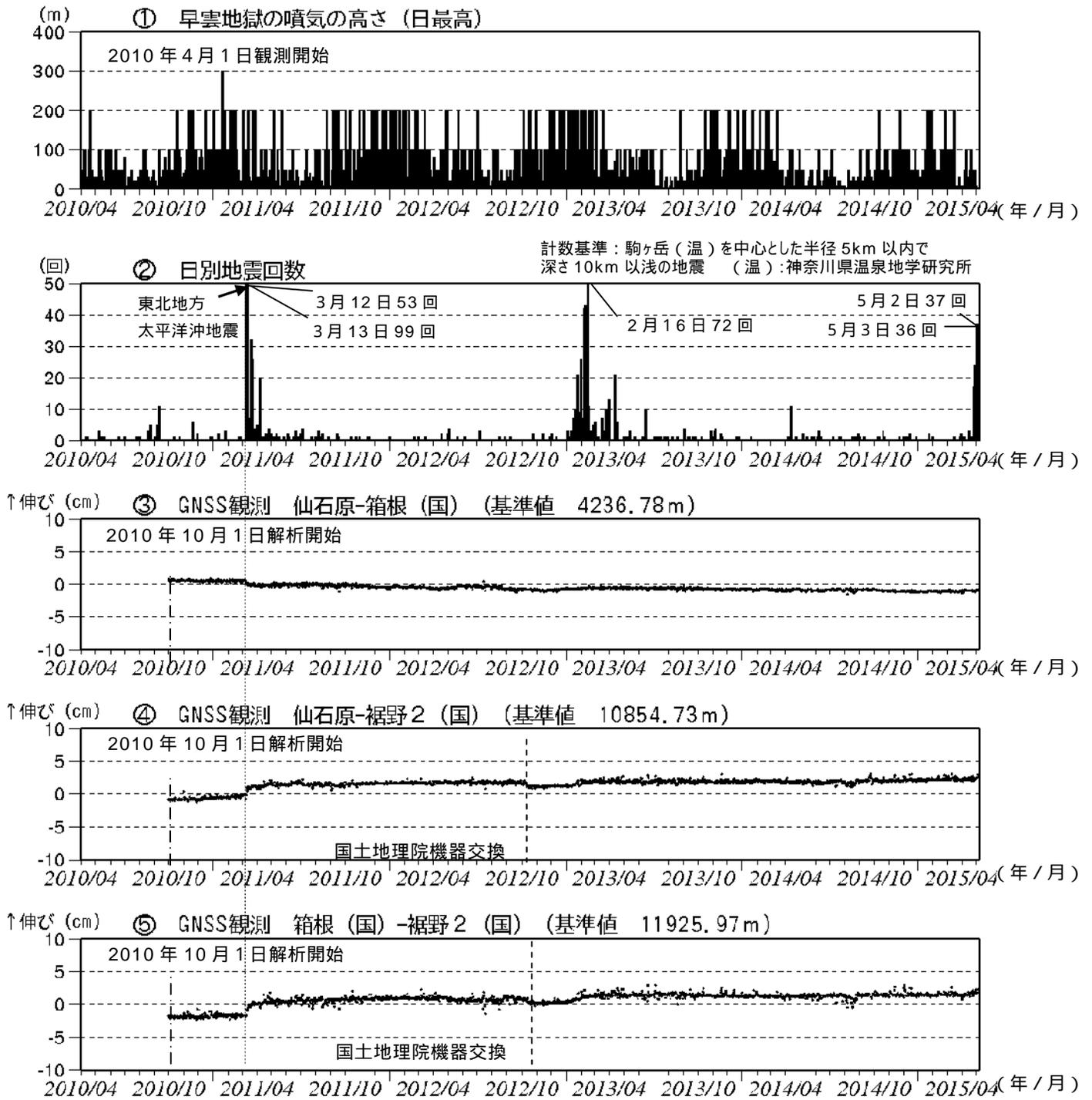


図2 箱根山 火山活動経過図(2010年4月1日~2015年5月5日)

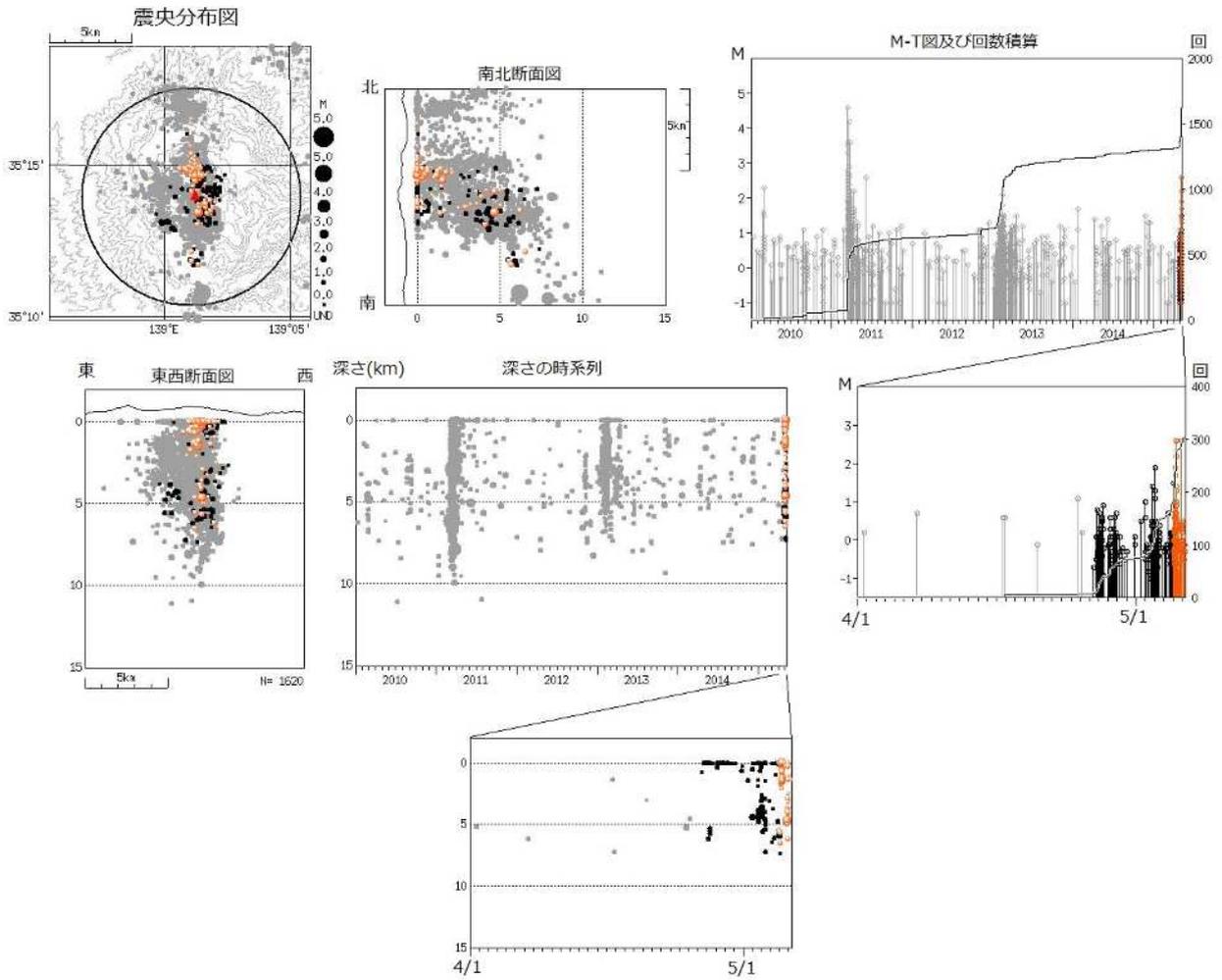
定時観測(09時・15時)による噴気の高さ(日最高)

箱根山付近で発生した日別地震回数

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、箱根山付近で地震活動が活発となりました。その後、地震活動は低下していましたが、2013年1月中旬から2月中旬にかけて駒ヶ岳から仙石原付近の浅部で地震回数が増加しました。2015年4月26日頃から大涌谷付近から神山付近の浅部で地震回数が増加しています。

~ GNSS観測による基線長変化(国): 国土地理院

の基線には、東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日)に伴うステップ状の変化が見られます。また、2012年末頃から2013年2月下旬頃にかけて、わずかな伸びの傾向が見られました。



: 2010年1月1日~2015年4月26日14時 : 2015年4月26日14時~5月5日00時
 : 2015年5月5日00時~

図3 箱根山 広域地震観測網による山体周辺の震源分布図(2010年1月1日~2015年5月6日07時)
 M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
 震源分布図の円は、駒ヶ岳観測点(温)を中心とした半径5kmの範囲を示しています。

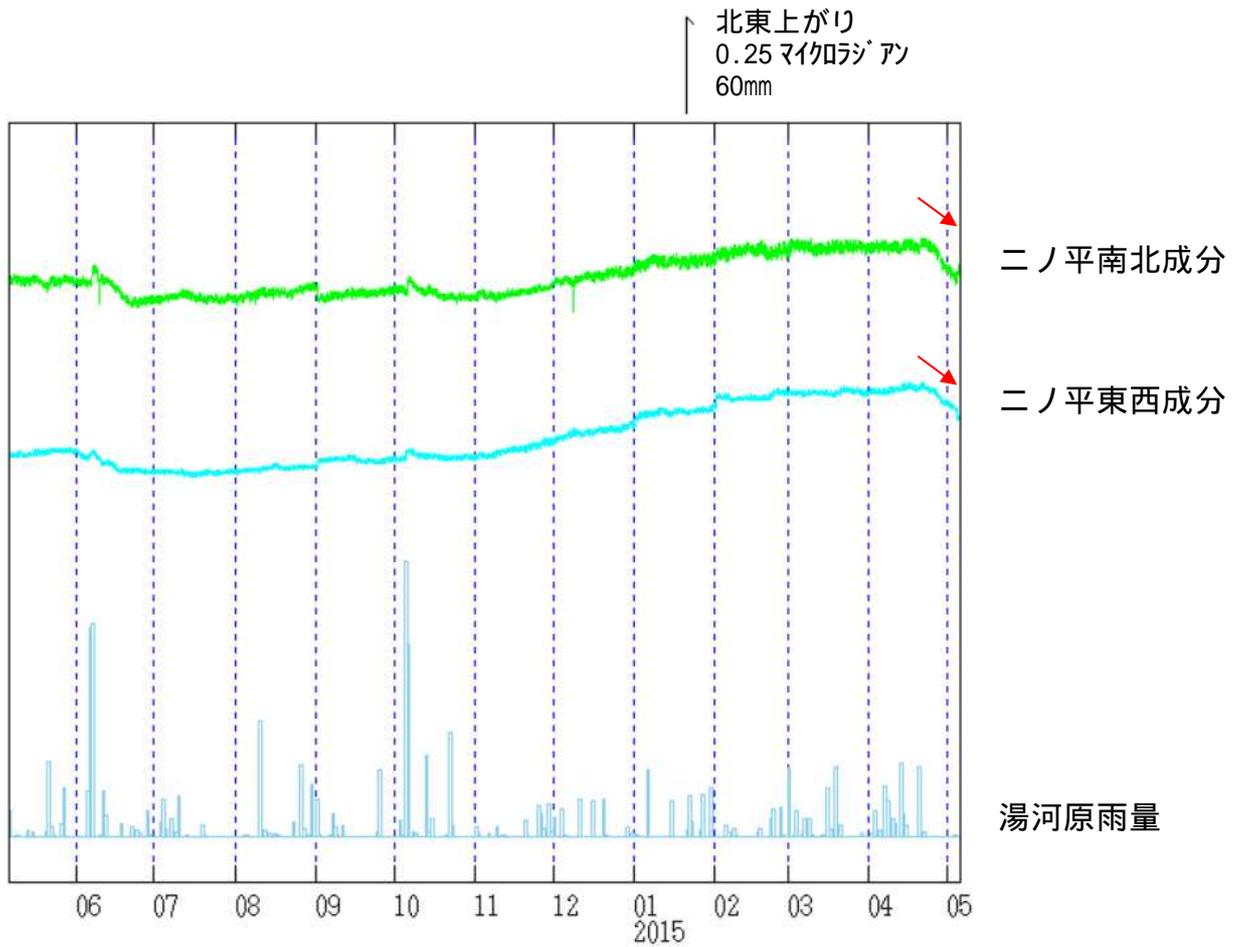
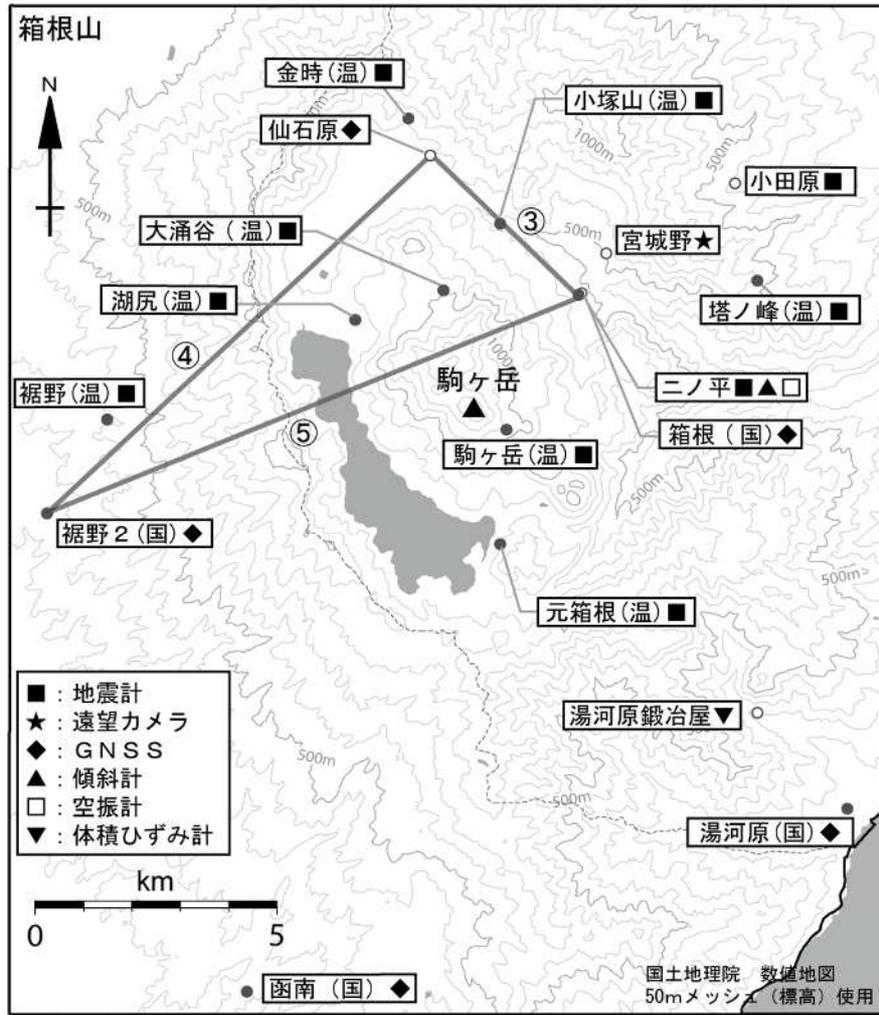


図 4 箱根山 気象庁傾斜計による変化図（2014 年 5 月 6 日～2015 年 5 月 6 日）



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(温) : 神奈川県温泉地学研究所

図5 箱根山 観測点配置図

GNSS 基線 ~ は図2の ~ に対応しています。